

『医療の社会史—生・老・病・死』



京都橘大学女性歴史文化研究所編

思文閣出版

2013年2月25日発行 A5版 2,800円（税別）

目次（タイトルと執筆者）

第Ⅰ部 中古・近世の医療と社会

- 平安中後期における貴族と医師（増淵徹・文学部教授）
- 鎌倉幕府の医師（細川涼一・本学学長・文学部教授）
- 『本草綱目』に見る中国医療の到達点（島居一康・大阪府立大学名誉教授）
- 《コラム》敦煌石窟壁画からみた民衆の喪葬礼儀「老人入墓図」を取り上げて（王 衛明・文学部教授）
- 室町・戦国期の山科家の医療と家業の形成—「三位法眼家傳秘方」をめぐる（米澤洋子・本学非常勤講師）
- 曲直瀬玄朔とその患者たち（田端泰子・本学名誉教授）
- 《コラム》モンゴル時代の文化交流—医術のケース（小野浩・文学部教授）

第Ⅱ部 近・現代の医療と社会

- 幕末京都における医家と医療（有坂道子・文学部准教授）
- 明治前期の村と衛生・病気—京都府乙訓郡上植野村を対象に（高久嶺之介・文学部教授）
- 《コラム》W・B・イエイツ・シュタイナツハ手術・長寿法（浅井雅志・人間発達学部教授）
- 錯乱と崇りの間—森鷗外『蛇』の問題圏（野村幸一郎・文学部教授）
- 母乳が政治性を帯びるとき—世紀転換期ドイツにおける乳児保護の実態と言説（南直人・文学部教授）
- 《コラム》日本の看護基礎教育における死の教育についての概観（奥野茂代・元本学看護学部教授）